

まちづくり委員会担当副理事長方針

石田 詔三

中津川青年会議所が目指す「明るい豊かな社会」とは、市民が「人のために」といった想いを持ち、前向きに課題解決に取り組む中で、一人ひとりが笑顔で繋がり合える。そのような市民が集うまちこそが、我々の目指すべき理想の社会なのではないでしょうか。だからこそ、我々は、現在そして未来の「ひと」と「まち」のことを真剣に考えられる市民を増やすべく、地域を担うリーダーとして行動を起していく必要があると考えます。

中津川市は、2027年リニア中央新幹線の開通に伴い、リニア岐阜県駅が設置されることにより、首都圏や全国各地と短時間で往来できるようになります。その中で、中津川市もリニア中央新幹線の開通へ向け、千載一遇のチャンスを活かすべく、「訪ねてよし」「住んでよし」のまちを目標とし、駅が立地するまちとしてリニアの波及効果を県全域に行き渡らすことができるよう広域連携を促進しています。市民が隣接する地域の想いを理解し、互いに手と手を取り合い、まちとして周囲の期待に応えることで、リニア中央新幹線の開通の際に市民にとって誇れるまちとなるのではないのでしょうか。しかしながら、現状は隣接する地域の想いを理解する市民は少ないと考えます。だからこそ、我々はこのまちに住み暮らすJAYCEEとして、市民と共に周辺の地域を巻き込み、広域的なまちづくりを思い描くことが必要であると考えます。そのためには、外からの価値観も取り入れて、岐阜県の東の玄関口としての魅力を高めていくことが重要であると考えます。そうすることで、市民一人ひとりが笑顔で輝き、誇れるまちとなり、「明るい豊かな社会」の実現に繋がると考えます。

私を含め、メンバー一人ひとりが様々な悩みや不安を抱えています。しかし、中津川という希望あるまちで住み暮らし、次代を担う青年だからこそ、青年会議所という舞台で三信条のもと、自分の意識と環境を変え、まちに必要とされる存在となるべきだと考えます。そのために私は副理事長として共に突き詰めた議論をし、メンバーのために行動に移して参ります。

<まちづくり委員会>

市民が2027年を見据えて、これからの広域的なまちづくりを思い描ける事業展開を行っていただきたい。